

## パネルディスカッション3 「内視鏡胃癌検診と現状と課題」

司会 河合 隆（東京医科大学消化器内視鏡学）  
鈴木 秀和（東海大学医学部内科学系消化器内科学）

胃癌はがん死亡数の3位で、減少傾向はあるも、いまだ多くの国民の命を奪っている。しかし、5年生存率はStage Iで97%以上であり検診による早期発見（二次予防）が極めて重要である。バリウム造影に加え、2016年4月から内視鏡検診が推奨され、全国の自治体で行われている。生検率、Sedation、画像強調使用、内視鏡萎縮の記載などに加え及精度管理、偶発症対策など胃癌検診における内視鏡検査の現状と課題について徹底的に議論していただきたい。